

討議されている。詳細な内容については、昭和35年度の福島県山村教育研究集録、第2集に集録されている。

B 小規模学校研究協議会について

この協議会は今年度からはじめられたもので、小規模の学校経営について指導と管理上の問題点について研究と協議を行ない、管理者としての資質を高め、この方面的の教育の改善をはかることを目的としている。この会の運営については県山村教育研究会と共に、福島市大笹生小学校公民館で行なった。講師として文部省、へき地担当係官、追田哲郎先生を招き、小規模学校における諸問題について講話をおききました。これは、この教育に関係するものの誰もが知つておくべき貴重なご講話であった。

へき地教育については、教育条件が恵まれていない中で、学習指導法の研究・地域の文化センターとしての分校教育等が行なわれている。これらの中で、漸次高めていくという努力と情熱がたいせつである。しかも、この教育は、単にへき地のひとつと、教師だけでなく、みんながへき地の教育に関心と理解をもち、日々に改善していくことが根本であろう。そしてこそ本県の学力は全体として高まっていくものである。

8 学校植林と環境緑化

本県の学校における緑化運動は昭和35年度に文部、農林の各大臣から表彰をうけて全国的にみても上位の成績をおさめている。学校林をもつ学校では、138校でその総面積は1,100haである。その立木評価額は最低に見積っても1億円に達している。これがあと18年くらいで20億円ほどの学校基本財産林になるのである。本年は100haの造林がおこなわれたが、この2、3年急激に造林面積が増加してきたことは喜ばしいことである。

学校林の4割は国有林の貸与をうけているもので、部分林と称し、伐採のときは20%が国に8%が学校にその伐採量が分けられることになっている。学校林の他の6割は市町村林または学校自体の山に造林がなされている。

A 学校植林推進委員会

この事業を推進している母体に県学校植林推進委員会がある。5月28日、郡山女子高校で本年度の総会が開催され、県側から林務監、学校教育課長の他に4名、各支部長（高校長3、中学校長12、小学校長1）22名が出席し、学校林の普及についての建設的意見がかわされ、配分率は支部の学校林面積、参加校数、当該年度の造林面積等を勘案して行なうことを決議した。

B 県外植林優良校視察

10名の支部長が、8月10日、山形市第8小学校を視察した。この学校は市の東北に位し、最上川支流の氾濫原に新設された学校で校地の整地作業跡に掘り出された自然石を巧に利用して庭園が作られ、各種の樹木が配されている。庭園の中に学校ありといった感じのする学校である。やり場に困る石を巧に利用して日本風の庭園にしたものである。そこから車を市の西北に位する寒河江に走らせ県林業試験場を訪れ、白旗松の育苗について専門師の説明をきき、松の苗圃管理に得るところが大きかった。

天童に泊り翌11日新庄の北方10kmほどにある金山林業地を見る。「世界一の杉林」とされている。1haの杉が時価にして1億円とされている。樹令は130～140年のものであるが、直径150cm、高さ50mに達し亭々として空中に伸びている林相は他に見られない壯観である。このような杉が残っていることは管理者の努力によるものであるが土壤や温度湿度等が杉に適している自然的な条件にもある。秋田、山形の県境に近く秋田の杉の美林の南限に位するものである。午後は陸羽東線で宮城県の北部山地の学校林を見る。江合川流域の一帯は杉によっておおわれ広葉樹林はほとんど見られない。戦後宮城県の山林行政に努力したあとが歴然と林相にあらわれている川渡に泊り、第3日は宮城県教育委員会を訪ね学校林の現況について専門の指導主事の説明をきき仙台で解散をした。

C 第11回県学校植林・環境緑化コンクール

参加校54校について治山課長技師と学校教育指導主事によって10日間にわたり実地調査がなされ、8月10日林務監室でその調査に基づき審査された結果、次の学校を入賞校とし、学校植林並びに環境緑化の第1位の学校を全国コンクールに推せんすることに決めた。

	学 校 植 林	環 境 緑 化
第 1 位 知 事 賞	田村郡竜根町立竜根中学校 双葉郡浪江町立浪江中学校 県立相馬農業高等学校	勿来市立山田中学校 田村郡船引町立美山小学校
第 2 位 県 教 育 委 員 会 賞	県立東白川農商高等学校 安達郡大玉村立玉井中学校 双葉郡川内村立川内第1小学校	喜多方市立慶徳中学校 石川郡石川町立野木沢小学校
第 3 位 國 土 緑 化 推 進 委 員 会 賞	県立猪苗代高等学校 南会津郡田島町立田島中学校	安達郡安達町渋川小学校